

平成30年度 事業計画書

献眼登録の件数は、各ライオンズクラブ及び白菊会のご協力を得て、一定水準を維持している。

29年度は6名の方から献眼があったが、愛媛県内の移植待ちの患者（レシピエント）の治療を賄うためには、さらに一層の努力が必要である。

愛媛アイバンクは本年1月からホームページ上にバナー広告を展開し、新たに年間約60万円の広告収入を生み出す等の努力を続けているが、今後さらに献眼者の増加をはかるための広報活動の充実及び財務体質を改善するための運営基盤強化が必要である。

このために、下記の事項を本年度の事業計画として実施する。

記

1. 献眼者の増加を図るための活動

- (1) 主要医療機関の院内コーディネーター、医師及び愛媛県臓器移植支援センターとの連携を密にする。
- (2) 県内のライオンズクラブに協力を仰ぎ、献眼登録キャンペーンを実施する。
- (3) 愛媛大学白菊会との連携を強化し、会員の皆様に献眼についての理解を深めていただくよう働きかける。
- (4) 献眼促進PRを積極的に行う。

2. 献眼についての理解を深めていただくための活動

- (1) 年1回発行している「愛媛アイバンクだより」の内容をさらに充実させる。
- (2) 「献眼」について、より多くの方にご理解いただくよう「講演会」「説明会」を開催する。
- (3) 公共施設等に、「愛媛アイバンクだより」「献眼登録リーフレット」の設置を積極的に依頼する。

3. 運営基盤の強化

- (1) 広告収入の増加を図る
- (2) 寄附金の税額控除優遇制度の告知を推進し、新規賛助会員の開拓をはかり、賛助会費未納者には再度振込を依頼し、未納者の減少に努める。
- (3) 「募金箱」の設置依頼を積極的に行う。
- (4) 献眼時のコーディネーターの対応円滑化のため、積極的にセミナー等に参加する。

以上